

保護者・地域のみなさんへ 12月8日(土)に3年生が、旧加領郷小学校でカフェを開店しました。1年生から取り組んできた「総合的な学習」のまとめとして、奈半利町振興のために実際に奈半利町に人を呼ぶための実験店舗を開店するチャレンジでした。奈半利町役場のみなさん、奈半利町教育委員会のみなさんに大変お世話になりました。保護者・地域のみなさんもお来店誠にありがとうございました！この学習経験を1年生2年生に引き継いでいきます。

ちがうはふつう

生徒のみなさんへ

「自分とちがうなあ」それが「共感」の始まり。

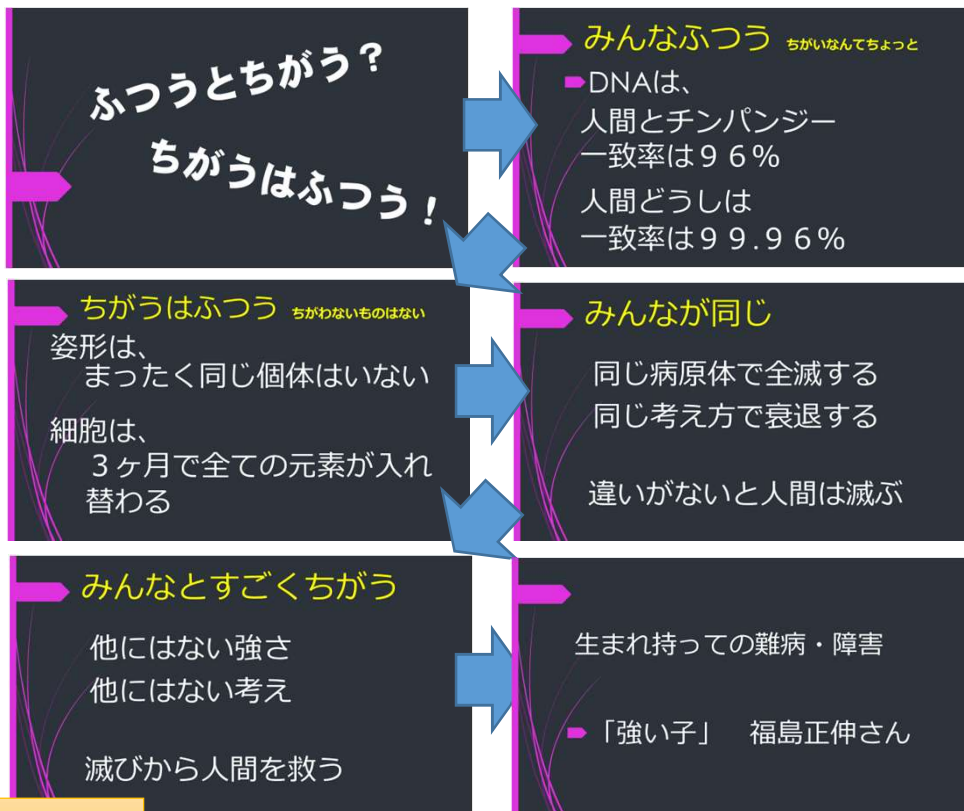
でも本当にちがうのでしょうか？ どれくらいちがうのでしょうか？

ジェンダー講演会でお話してくれた大久保先生は、どうですか？ 兄弟姉妹はどうですか？ クラスの友達はどうですか？

人間は「共感」できると優しくなれます。

違いがわかることは「共感」への第一歩です。

違いの尊さを福島さんの「強い子」から知って下さい。



「強い子」 福島正伸

これはある難病の女の子のお話です。

女の子は進行性の病気で入院していて、

頭や身体のアちこちに器具がとりつけられていました。

大きな手術が必要でうまくいかなければ命を落とすこともあるそうです。

お母さんはそんな彼女を見ると悲しくて仕方ありません。

「どうしてうちの娘がこんな姿に・・・」

女の子は大好きなお母さんを元気づけたくて

お見舞いに来るお母さんをいつも笑顔で迎えていました。

女の子は童話を読むのが大好きで、自分でもよくお話をつくっていました。

そして、お母さんのために「強い子」というお話をつくりました。

それは彼女が生まれる前のお話です。

ある日神様に呼ばれていくと、たくさんの赤ちゃんたちが並んでいて、
一人ずつプレゼントをもらっています。

「あの町に生まれたい」「お金持ちの家に生まれたい」

神様はどんなことでもかなえてくれるのです。

女の子の順番がやってきましたが、何がほしいか決まっていませんでした。

ふと見ると神様のうしろに「重い病気」というプレゼントがあります。

「これは誰がもらえるの？」

「いちばん強い子だよ。このプレゼントをもらった子は

生まれてからすごく苦しいんだ。」

「だから、いちばん強い子にしかあげられないんだよ。」

女の子は思いました。

「他の子がこのプレゼントをもらったら、

その子に会ったときつらいだろうな・・・」

そして神様に言いました。

「そのプレゼント、私にください。私がいちばん強い子よ。」

「他の子にはあげないで。他の子が苦しむのはいやだから。」

「私がいちばん強い子だから私にちょうだい。」

「君が来るのをまっていたんだ。君がいちばん強い子なんだね。」

「ねえ、ママ。そうやって神様をお願いして私は生まれてきたんだよ。」

お母さんは、涙を流しながらも笑顔で女の子を抱きしめました。